

グアテマラ内政・外交（2011年1月）

平成23年2月

在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

内政面では、14日、開会した国会においてコロン大統領が年次教書演説を行い、政権発足後3年目となった2010年について、治安対策、社会政策面等での成果を強調すると共に、財源確保のための税制改革の必要性を強く訴えた。2011年大統領選挙に関し Borge y Asociados 社が実施した世論調査結果でペレス・モリーナ野党愛国党(PP)前党首が前回調査(2009年同時期実施)における支持率(20.6%)を更に伸ばし(38.9%)、支持率2位のサンドラ大統領夫人支持率(11%)との差を広げた。治安面では、3日、グアテマラ市内走行中のバスに仕掛けられた爆発物が爆発し、死亡者8名、負傷者18名が生じた。

外交面では、コロン大統領夫妻がブラジル大統領就任式に出席(1日)、エスパーダ副大統領のキューバ訪問(16日から19日)、ロダス外相がメキシコを訪問しエスピノサ同国外相と会談した(18日)ほか、グアテマラにおけるインド大使館が正式に開設された(19日)。

2. 内政

(1)コロン大統領の年次教書演説

(ア)14日、国会が開会し新執行部が成立した(新執行部の構成は、アレホス議長(与党国民希望党(UNE)、再々任)、バルキン第一副議長(国民大連合(GANA))、ロペス第二副議長(グアテマラ共和戦線(FRG))、ガンダラ第三副議長(グアテマラ会派(BG))。引き続きコロン大統領が政権発足3年目の年次教書を国会に提出した。コロン大統領はその後、3万人近くの支持者が集まるグアテマラ市内の憲法広場に赴き支持者に対し過去3年間の施政報告を行った。

(イ)同日の国会における年次教書演説において、コロン大統領は、政権発足後3年目となった2010年について、治安対策、社会政策面等での成果を指摘すると共に、財源確保のための税制改革の必要性を強く訴えた。

(2)2011年選挙を巡る各党の動向

(ア)9日、与党国民希望党(UNE)及び野党国民大連合(GANA)が、本年の総選挙において、国内5つの県(ケツアルテナンゴ県、キチェ県、トニカパン県、チマルテナンゴ県及びウエウエテナンゴ県)において連携を組むことを決定した旨発表した。

(イ)10日、野党愛国党(PP)は、本年総選挙における同党選挙陣営のトップをロペス・ボニージャ氏(元軍人、政治評論家)が務めることとなった旨発表した。ロペス氏は同党の本年選挙戦における旗印は引き続き治安対策であるが、同時に、開発なくして人間開発はないとのメッセージも伝えていきたい旨表明した。

(ウ)16日、自由民主会派(LIDER)の党大会において、バルディソン同党党首は党幹事長並びに同党大統領候補として選出された。これに伴いバルディソン党首は国会議員を13日辞職した。

(エ)23日、グアテマラ市内で与党国民希望党(UNE)党大会が開催され、フローレス国家平和基金

(FONAPAZ)前長官が党首、ファハルド同党党首が党書記局長、また、サンドラ・トーレス大統領夫人妹のグロリア・トーレス女史が党組織部長に選出された。大統領及び国会議員選挙候補者選出に多大な影響力を有する3ポストにサンドラ大統領夫人関係者が選出されたことから、同大統領夫人の大統領選挙出馬の可能性が高まったとの見方も一部で示された。

(オ)24日付エル・ペリオディコ紙は、リオス国会議員(野党グアテマラ共和戦線(FRG)所属、リオス・モント同党党首(元大統領)の長女)に対するインタビューにおいて、同議員が本年の大統領選挙への出馬を表明した旨報じた。同インタビューでリオス議員は、元大統領の娘でありながら大統領選挙に出馬可能であると確信する理由を問われたのに対し、「憲法裁判所が1989年に大統領選出馬の意向を示していたセレス元大統領(当時)夫人に対する判決で現職大統領の配偶者は大統領選挙に出馬不可能であるとの判決を下したが、自分(リオス議員)は、元大統領の娘であるものの、父が大統領であったのは前世紀の話であり十分な時間が経過していると解釈している。更に、(大統領の姻族及び血族の大統領選挙出馬を禁じた)憲法が発効したのは(リオス・モント元大統領が在職していた1982年以降の)1985年であり、憲法は過去の事例に遡って有効とはなりえないと理解している。よって、自分(リオス議員)の大統領選挙出馬を妨げる法的問題は存在しない。」と述べたほか、「自分(リオス議員)は政界で足かけ25年間、また国会議員として15年の経験を有する。自分(リオス議員)は大統領選挙出馬を誰にも譲るつもりはなく、また、大統領選挙への出馬は合憲であると主張している。自分(リオス議員)が大統領に選出されるか否かは国民の判断次第である。」等述べ、大統領選出馬への強い意欲を示した。

(3)2011年大統領選関連世論調査結果

(ア)15日付エル・ペリオディコ紙は、2011年大統領選挙に関しBorge y Asociados社に委託実施(2010年12月)した世論調査結果を掲載し、ペレス・モリーナ野党愛国党(PP)前党首が前回調査(2009年12月末-2010年1月初旬実施)における支持率(20.6%)を更に伸ばし(38.9%)、支持率2位のサンドラ大統領夫人支持率(11%)との差を広げた旨等報じた。ペレス・モリーナPP党前党首(前回大統領選決選投票でコロン大統領に敗北(同決選投票得票率、コロン大統領:52.82%、ペレス・モリーナPP前党首:47.18%))に対する支持率は、2009年1月の29.9%から、2010年1月の20.6%、今次調査の38.9%へと上昇した。地域ごとの傾向では、トップを争うペレス・モリーナPP党前党首及びサンドラ現大統領夫人は全国的に90%以上という高い知名度を誇る。ペレス・モリーナPP党前党首は特に太平洋岸地域で強い支持基盤を有しており、サンドラ大統領夫人は首都における支持が特に弱い一方で、国内東部地域における支持率は高い。

(イ)27日付当地プレサ・リブレ紙は、当国における支持政党に関しVOX LATINA社に委託実施した(2011年1月5日-11日、回答者1,200名)世論調査結果を掲載し、回答者の半数近くが支持政党なしと回答した旨報じた。同調査結果では、「本年大統領選挙で支持する政党は」との質問に対し、回答者の48.8%が「支持する政党はない」と回答したほか、野党「愛国党(PP)」との回答者が22.4%、与党「国民希望党(UNE)」との回答者が7.6%、「ビジョンと原則」党(VIVA)が1.6%となったほか、他の政党を回答した割合は1%未満にとどまった。同調査結果についてグアテマラ共和戦線(FRG)のロサレス議員は、「政府の活動及び各党の主張が実用的でも現実的でもないことから、国民が政治に対し否定的な見方を示している。政党の活動内容を改善する事を提案する。」と述べ、またビジャテ自由民主会派(LIDER)議員は、「各政党の公約は、ピノキオのコンテストの様なもので非現実的なものばかりである。」旨述べた。

(4) サンドラ夫人の次期大統領選出馬に関するコロン大統領発言

13日付プレサ・リブレ紙はコロン大統領に対するインタビュー記事を掲載し、同インタビューにおいてサンドラ大統領夫人の大統領選出馬があり得るとの見解がコロン大統領より示された旨報じた。同インタビュー記事でコロン大統領は、法的問題からサンドラ大統領夫人の出馬は難しいという見方もありそのため離婚するかもしれないとも囁かれているがとの質問に対し、「サンドラ及び我々が相談を行った数多くの弁護士によれば、彼女が決断すれば(大統領)候補になり得ると思われる。」と述べた。(サンドラ大統領夫人の大統領選出馬については、グアテマラ共和国憲法第186条(大統領或いは副大統領職への禁止規定)c)、「現大統領或いは現副大統領との血縁関係第4親等及び姻戚関係第二親等内」)に抵触するとされる一方、一部では、親等を定義する当国民法第190条規定(「配偶者は親族(parientes)であり親等に含まれない」)に依拠すれば、大統領夫人は憲法上の大統領選出馬禁止規定に触れていないという解釈も示されている。)

(5) 政府関係者の交替

5日、本年実施される総選挙に出馬する予定の通信インフラ住宅大臣を含む政府関係者の交替人事が発表された。通信インフラ住宅省ではカスティージョ大臣が退任しインスア同省次官が昇格し大臣に就任、パイヌ次官(インフラ担当)が退任し後任にピバラル同省道路局長が昇格、ムリー次官(財政担当)が退任しオールドニェス同省道路補修局副事務局長が後任に就任した。農牧食糧省では、オレジャーナ次官が退任しカンボジョ同省顧問(家畜担当)が後任に昇格、ヒロン次官も退任し後任としてオレジャーナ同省次官が就任した。また、フローレス国家和平基金(FONAPAZ)総裁も退任し、後任としてピンソン国際協力審議会部長が就任した。今般交替したカスティージョ通信インフラ住宅大臣、パイヌ同省次官、ムリー同省次官、オレジャーナ農牧食糧省次官、ヒロン同省次官及びフローレス国家和平基金(FONAPAZ)総裁は、今後本年の選挙戦に関わる予定とされている。

(6) 逃亡中の前内務大臣逮捕

11日、公金横領等の容疑が掛けられ約10ヶ月間逃亡していたベラスケス前内務大臣(2010年2月28日更迭、同3月10日以降逃亡中)が当局に出頭し逮捕された。11日午前8時半、ベラスケス前内務大臣は裁判所に出頭し、公金(国家文民警察向けガソリン費約4千万ケツアル(約5百万ドル))横領容疑、職権乱用・不正容疑(重犯罪人向刑務所改修作業関連)等により担当判事及びCICIG(グアテマラ無処罰問題対策国際委員会)捜査官による聴取を受けた後、右容疑により起訴されグアテマラ市内の国軍基地内刑務所に収容された。ベラスケス前内務大臣は、「自分はこれまでに出国しておらず当局関係者は自分の居所を知っていた。この間にメノカル内務大臣とも話したことがあり、同内務大臣は自分の居所を承知しており、さらに自分の身が狙われているとして警告もしてくれた。これまでになぜ自分を逮捕しようとしなかったのか分からない。」と述べた。これに対しメノカル内務大臣は、「(ベラスケス前大臣の同発言を)全て否定する。政府は司法から逃亡している容疑者と交渉や取引を決してしない」等述べた。

3. 治安情勢関連等

(1) グアテマラ市内運行中バス車内での爆発事件の発生

(ア) 3日午後、グアテマラ市内第7区の交差点において、グアテマラ市発ケツアル市行きバスに仕掛けられた爆発物が爆発し、子供2人を含む4名が死亡し18名が負傷し病院に搬送された(その後の死亡を含め死亡者

は計8名)。目撃者の証言では、走行中のバスに女が乗り込み2ブロック走行したところでリュックサックを車内に置いて下車した。乗客が忘れ物と思いリュックサック開き確認しようとしたところ、爆発が起き、バスが炎上した。

(イ) 検察当局は同事件の捜査結果として、爆発物をバスに放置した女及び首謀者等の容疑者4名を逮捕した旨発表すると共に、バス会社に対する恐喝金の受け取り役を担った容疑者が受け取った恐喝金を横領したことを背景に、恐喝金が支払われなかったとの誤解に基づく報復として発生した襲撃事件との見解を示した。

(2) アルタ・ベラパス県に対する戒厳状態宣言の延長

18日、コロン大統領は、昨年12月19日に発令したアルタ・ベラパス県における戒厳状態宣言を更に30日間延長する旨発表した。コロン大統領は、「昨年戒厳状態宣言が発令されて以来、41人を逮捕、自動車8台及び武器149丁を押収し、両者の合計は860万ケツァルに相当する。アルタ・ベラパス県の状態は安定しているものの、治安の改善プロセスを確固たるものとする必要がある。同県コバン市における秩序と治安を取り戻すため、戒厳状態宣言の30日間の延長を決断した。同宣言は、(治安の安定化に向けた)計画の一部に過ぎない。」旨述べた。

4. 外交

(1) コロン大統領夫妻のブラジル訪問

1日、コロン大統領夫妻はルーセフ・ブラジル大統領就任式に出席するために同国を訪問した。

(2) エスパーダ副大統領のキューバ訪問

16日から19日までエスパーダ副大統領はキューバを訪問し、マチャド国家評議会第一副議長と両国間の保健分野を始めとする二国間関係及び国際情勢につき会談した。

(3) ロダス外相のメキシコ訪問

18日、ロダス外相がメキシコを訪問しメキシコ市でエスピノサ外相と会談した。両外相は、両国間の優先的課題の一つは移民問題であり米国との国境を越える不法移民の人権を確保することで一致した。また両外相は、国境を越えた組織犯罪対策は双方の責任の原則の下に調整されることで合意するとともに、本年4月に開催され、国境、インフラ、エネルギー等を議題とする第11回二国間委員会に出席することで合意した。

(4) グアテマラにおけるインド大使館の開設

19日、グアテマラにおけるインド大使館が正式に開設すると共に、ベルマ在グアテマラ・インド大使はインド政府が対グアテマラ貿易関係の強化を目指している旨発言した。同日、ベルマ大使は、「今後、インド大使館は、IT関連事業及び製造業施設の設立を含めた当国におけるビジネス・チャンスを探求することとなる。グアテマラは、中米地域で人口・経済規模が最大の国であると同時に、地理的優位性も備えているためインドにとって魅力的な国である。」旨述べた。

(5) ハイチ派遣グアテマラ軍部隊の交代

24日、ハイチへの第10次派遣憲兵隊143名に対して派遣命令が下され、26日、国連ハイチ安定化ミッション(MINUSTAH)参加のため当国を出発した。バレンスエラ国防大臣は、「ハイチの状況は複雑かつ非常に困難だが、我が国憲兵隊には既に数回派遣された者がおり、我々には経験という利点があるため順調に事が進むと信じている。間もなく帰国する第9次隊は震災復興に貢献した。」と述べた。